

Serge Tixa (著)

奈良 勲 (監訳)

川口浩太郎, 金子文成, 藤村昌彦, 佐藤春彦 (訳)

触診解剖アトラス 第3版

評者 高橋哲也

順天堂大学保健医療学部開設準備室

「美しい本」というのが最初の印象である。

統一された背景に、洗練された美しい男女のモデルと繊細なタッチの *masso-kinésithérapeute* (理学療法士) の指先が、*danse contemporaine* (コンテンポラリー・ダンス) を思わせる。この「美しい本」の著者が、フランス人の Serge Tixa 氏であると確認し、その印象に間違いがなかったと納得する。静止した写真であるにもかかわらず躍動感あふれ、舞踊芸術を観ているような錯覚にすら陥る。愛情表現豊かなフランス人らしさが感じられる。

フランスは、理学療法を *physiotherapy* または *physical therapy* と表現せず、*kinésithérapie* と表現する。Kine の接頭語から、*kinesiologie* (運動学)、*kinetics* (動力学)、*kinesthetic* (運動感覚) が頭に浮かぶ。運動や動作を学ぶうえで、骨学、筋学、神経学、脈管学が1冊で学べる貴重な本でもある。著者の Serge Tixa 氏はオステオパシー、カイロプラクティック、理学療法の学校の講師を務めている。オステオパシーやカイロプラクティックは、わが国では、民間療法として受け止められているが、理学療法同様、手を使って施術を行うものであり、特にオステオパシーは骨や筋に限らず、動脈や静脈などの循環器系や脳神経、末梢神経などの神経系の広範囲の知識を基に、施術を行うものである。そのため、本書においても、「主な神経と血管」という項を設け解説されており、局所的解剖学的理解を助ける構成になっている。患者の触診に焦点を絞れば、幅広く性質の異なるアプローチであるが、多様性として理解し十分受け入れることができる。

触診は、一般的には *manipulation* または *palpation* と英訳されるが、この本は、冒頭から触診を *manual exploration of surface anatomy* (表面解剖の徒手探索) と表現し、新たな触診解剖学を提案している。Manual exploration (徒手探索) とあるように、

著者の丁寧な「探索」は、理学療法士や作業療法士にとって重要な解剖学的構造の特定方法を示し、最適な徒手療法の選択を可能にしてくれる。

この新しい第3版では130種類以上のカラーイラストがあり、900枚以上の白黒写真一つひとつにわかりやすい解説が付く。美しい写真に目を奪われてしまうが、要所に登場する「クリニカルヒント」も素晴らしく、訳者の丁寧な作業に感心する。本書を片手に隅々まで触診する楽しみが広がる。

理学療法士 = *masso-kinésithérapeute*、という表現からもわかるように、*masseurs* (マッサージ) がフランスでは大変重要視されていることがわかる。人体を触り、診るための必携本と言えるだろう。



B5判・568頁
定価：本体8,000円＋税
医学書院刊、2018年